

5年4組「究める～TACHIBANA ビデオ イン スマイル～」単元構想図

現在の子どもの姿

課題が設定できると、それに向かって主体的に意欲的に取り組むことができるが、自ら生活や社会の中で課題を見出すところまでは、たどり着いていない。また、友達とかかわり合って課題を解決することが苦手な児童も多く、その意義や達成感を得ることが難しい。各教科等の学習の動機づけやまとめて放送番組を活用しており、視聴する際には番組の構成の工夫に興味をもっている児童も多くみられた。担任がコンピュータを活用した授業デザインを意識していることもあり、児童は情報活用能力のスキルが上がることを実感している。

活動の動機付け（5時間）

○総合的な学習の時間で何をするか話し合う。

- ・「探究的に学ぶこと」が目的の時間だから、ねらいを達成するためにはどのように学んでいけばよいのかな。
- ・一人一人が役割に責任をもつことができ、クラスで力を合わせることで達成感を得られる活動にしたいな。
- ・クラスみんな興味があって、前向きにできる「動画づくり」に取り組もう。

探究活動1 (20時間+国語・算数・社会・理科・家庭科)

どのような動画を作ろうか計画を立てよう。

○動画がどのようにして作られているのか考える。

- ・テレビやコマーシャル、動画サイトなど普段目にして映像を参考にして、調べてみよう。

○どのようにしたら動画を作ることができるか調べたことを報告し合う。

- ・様々な手順を踏むことが必要なんだね。実際に映像を作る仕事をしている人に話を聞きたいな。

○映像のプロの人に話を聞いてみよう。

- ・自分たちが調べたこと以外でも、見えないところで様々な工夫や努力があるんだね。

○クラスとしてどのような内容の動画を作るか話し合う。

- ・誰に向けて映像を見てもらうか、相手を決めることによって内容や時間が変わってくるね。

- ・自分たちの伝えたい内容、テーマをはっきりさせることが大切だね。

○グループで映像を作る上で計画を立てる。

- ・作りたい動画についてコンセプトを明確にして、伝えたい相手や目的、自分たちの考えを明確にしよう。

○グループの計画案をプレゼンテーションして、よりよい動画にするためにアドバイスし合う。

- ・資料を作成して、伝えたいことがわかりやすく伝わるように発表したいね。

探究活動2 (25時間+朝の15分)

グループで一つの動画作品を作ろう。

○企画書をもとに各グループで映像制作を行う。

- ・計画に沿って、見通しをもって期限までに終わらせることができるように段取りよく進めよう。

○素材集めをしよう。

- ・撮影の許可をとって、下見をしてから出かけよう。

○素材をもとに動画編集をする。

○中間報告会（プレゼンテーション）を行い、それぞれのグループの進捗を確認し合う。

- ・プレゼンで映像のプロの方からもう一度アドバイスをもらいたいね。

探究活動3 (25時間+朝の15分)

クラスで完成した映像を公開して、みんなに喜んでもらおう。

○映像を公開する方法について話し合う。

- ・まずは、5年生の他のクラスや他の学年の友達に見てもらいたいね。

○試作映像として公開する。

- ・他のクラスや学年の友達に視聴してもらい、もっとよい作品になるように感想やアドバイスをもらおう。

○映像作品の仕上げを行う。

- ・もう一度それぞれのグループで作品について見直して、バージョンアップさせよう。

○上映会を行うための準備を行う。

- ・映像を見てもらうだけでなく、会場の雰囲気や装飾、レイアウトも工夫する必要があるね。

- ・たくさんの人に来てもらうために積極的にPRする必要があるね。

○上映会を行う。

- ・いつもお世話になっている地域の人や映像のプロの方にも来てもらって作った甲斐があるね。

○一年間の活動を振り返る。

- ・映像制作をクラスで行ったことで、クラスとして力を合わせて目標を達成することができたよ。

- ・映像制作の活動で学んだことをこれからの学校生活に生かしていきたいね。

目指す子どもの姿

課題を自分事としてとらえ、仲間と学ぶことで解決できる姿

5年4組 「究める～TACHIBANA ビデオ イン スマイル～」活動の実際

<活動のきっかけ>

活動を始めるにあたって「5年生の総合ではどんなことを学びたいか」について話し合いをした。自分たちの今興味や関心のあること、学校の友達や地域の人たちとかかわって活動したいこと、担任の得意なことを生かしたいなどという意見が出され、「動画づくりを通して学校や地域の人達を笑顔にする」という主活動が決まった。

<探究活動1>

1-1 動画のしくみを探ってみよう

まず、身の回りにあるあらゆる動画についてその作り方の工夫について調べた。子どもたちにとって動画閲覧サイトやTVの番組、CMなど動画に接しながら生活している。動画の時間やカメラの角度や編集の工夫など、動画を繰り返し視聴することで一つ一つの作品の特長をつかみ、「自分たちも実際に作ってみたい!」という強い思いをもてるようにした。

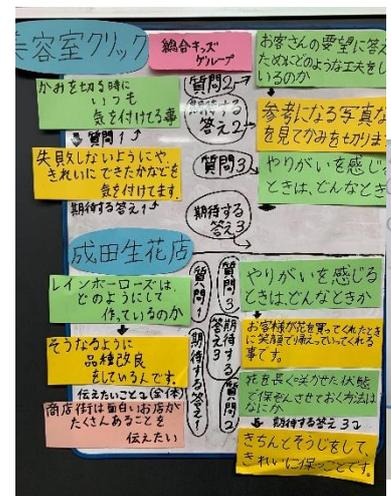
1-2 外部講師との出会い

年間を通して子どもたちの活動にかかわってくださる外部講師の存在は必須だと考えた。長年映像制作をされているコンテンツリンクの森さんに実際に授業に入っていただき、子どもたちと対話しながら活動を進めることができた。森さんからは、映像を作る際の工夫や努力などを理論的に子どもたちに教えていただき、自分たちの思いや考えが相手にわかりやすく伝わるように計画をしたり、カメラワークに注意すると映像が全く違ったりするということを体験的に学ぶことができた。また、本活動においては著作権や肖像権などいわゆる情報リテラシーについては知識として抑えておく必要があったため、森さんには折に触れて話題にさせていただいた。5年生の国語科や社会科の学習との関連を図りながら、作品を作る上での街頭のインタビューや第三者の著作物を使う時などに意識して活動する様子も見られた。



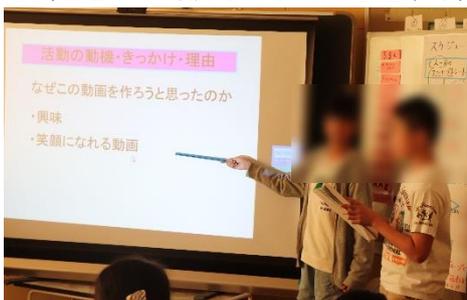
1-3 常に3人組

この単位では、3人グループで一つの動画を作ることを主活動とした。その意図としては、少ない人数で、自分の役割や責任をしっかりと果たし、自分たちの作品に愛着をもってほしいということや、友達同士でかかわりあって課題を解決することの難しさや喜び、達成感を味わわせたいなどが挙げられるが、結果として全活動の半分以上をこの3人で過ごすことで、作品としてよりよいものにしようという共通の目的に向かって上手いかないという経験を繰り返しながら力を合わせる姿が数多く見られた。



1-4 活動を始める前にプレゼンテーション

動画を作る上では、クラスとしての動画なので、クラスの全員の合意を得ないことには活動を始めることはできないということを確認し、その場として全員の前でプレゼンテーションをした上で、クラスみんなで作る動画の内容などについて共通理解しようという話になった。各グループにおいては、プレゼンのための準備をするために、動画を作る目的や動画を通して伝えたい思いについて話し合い、見てもらった人になってほしい気持ちなど(ここではそれをコンセプトとする)を資料にして発表した。グループで



話し合う際には、右図に示したような項目について短冊の画用紙に書き出し、それをホワイトボードの上で自分たちの意図した内容がないように並べ替えるなどして話し合った。そのホワイトボードをもとにプレゼンテーションソフトを用いて資料を作成し、相手(ここではクラスの友達や先生、外部講師の森さん)にわかりやすい発表になるように

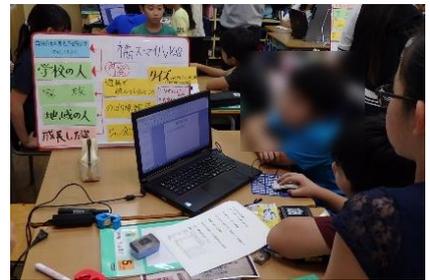


試行錯誤を繰り返した。プレゼン大会では、ほかのグループの活動内容についてコンセプトに沿ってききながら、疑問や改善点などに

ついても意見交流を行った。

1-5 いよいよ撮影～保護者の協力を得て

プレゼン大会を経て、グループで動画を実際にする活動に入ることにした。**動画の第一弾として武蔵新城駅前の商店街に協力**をしていただき、取材や撮影を行った。事前に学校でインタビューの準備やリハーサルをしていたが、実際に現場で行うことになると、上手いかなかったことも多かったようである。だが、事後に撮影した素材を編集できるということを理解していた子どもたちは、失敗をしても相手をお願いをして再録画をしてもらっていた。



1-6 素材を生かして編集

学校に戻り撮影してきた素材をもとに編集する活動に入った。森さんから編集を始めるにあたって助言をもらったことで、限られた時間の中で効率的に行うことができた。また、編集する際には、**活動のプレゼンテーションで用いた資料と照らし合わせながら、活動のコンセプトから逸れないように留意**した。

1-7 第1弾の視聴～第2弾へ

一通りの編集を終えて、グループでの試作が完成した。それをクラスのみなどで視聴会を開いた。森さんにも指導講評をいただき、改善点についても具体的に教えていただいた。第1弾については主な内容を「商店街にあるお店の特徴や働いている素敵な人」としていたが、子どもたちから「**橘小学校の中で映像を撮ってみたい**」という意見が出され、第2弾として学校の中の人や施設など自分たちのグループの興味のあること、伝えたいことについて動画にすることとした。第1弾で一通りの動画を作る過程を経験している子どもたちは、グループで取材や撮影、編集などを進んで行うことができた。



<探究活動2>

2-1 完成した動画の公開

「完成した動画をどのように披露しようか」ということについては、探究活動1に話し合っておいたように学習発表会の場にするにすることとした。発表会では、動画そのものを見てもらうだけでなく、一年間グループで探究してきた内容について、以前経験したように「プレゼンテーションしよう」ということになり、1-4と同様の手順で資料を作成し、練習することとした。当日は、自分たちの活動に自信をもって資料をもとにグループで力を合わせて発表する様子も見られた。また、**保護者にとっても一年間の活動の様子を知ることができ、成長を感じる機会となったと好意的な感想**を多数いただいた。



2-2 さらに活動の幅を広げる

この単元では、「映像のまち かわさき」の支援事業として「映像のまち・かわさき」推進フォーラムと連携することで、子どもたちに充実した活動を行うことができるようにした。これは、キャリア教育との関連も意識した意図もある。その事業の一環として映像に関するイベントへの参加の依頼を受けた。その依頼について子どもたちに話すと「ぜひやらせてください!」という前向きな意見が出され、これまでの活動を川崎市に広めるよい機会として捉え、全活動のまとめと位置付けることにした。

<実践をふりかえって>

子どもたちにとっては、担任の意向や得意なことを生かす形になってしまい、活動を始めるにあたっての動機づけが弱かったと言える。ただし、5年生がクラスごとに様々な探究的な活動をしながらも「**学年のめざす子ども像**」については共通理解をした上で4月にスタートさせたように、目の前の子どもたちにつけさせたい資質・能力を明確にしておけばいろいろなアプローチや探究課題、活動になったとしても、子どもたちが課題を設定し、それに向けてクラス一丸となって活動することで、充実感を得られると考えている。

今回の実践では、担任の専門性を活かしつつも外部講師に任せたことがむしろよかったと感じている。子どもたちには、**様々な人とかかわり合いながら課題を解決できる**ように単元を組み立てていったので、学校の中の人や専門家、地域の人といつでもかかわることのできる環境を作ることができたと思う。また、川崎市の事業とも連携することで、自分たちの取り組みが川崎市全体にも関連していることを認識できたのではないかと考えている。

一方、活動の目的である「**動画を作ることを通して学校や地域の人達を笑顔にする**」ということには直接的には達成できなかったと感じている。やはり一部の人達に動画を見てもらいその人達に広めることはできるかもしれないが、子どもたちが当初イメージしていた広く大勢の人達を喜ばせたり、自分たちの活動や考えを知ってもらったりするということはなかなか難しいのだと改めて考えさせられた。